

生物多様性こうち戦略の改訂

(環境共生課)

1 改訂の背景

「生物多様性こうち戦略(以下「戦略」)」は、生物多様性の保全・再生に向けてそれまで個別に行われていた様々な取組の連携を深めるとともに、地域の垣根を越えた取組が必要という考えから、県民や市町村、民間団体などのあらゆる主体がお互いに協働して取り組むことができるよう、その基本方針並びに行動計画として平成26年3月に策定しました。

生物多様性を取り巻く課題は多様かつ複雑であり、戦略では、時間の経過とともに生まれる変化や新たな課題に対応するために、5年ごとに見直しを行うこととしています。

戦略策定後、「持続可能な開発目標 (SDGs)」が国際サミットで採択されるなど国際的な動きがあるほか、海洋プラスチックゴミごみ問題が注目されるなど、社会情勢も変化しています。

こうした生物多様性を取り巻く環境の変化を背景に、平成31年3月に県内の環境の変化に対応した戦略の改訂を行いました。

2 生物多様性こうち戦略とは

私たちが安全で心豊かに暮らしていくには、安全で安心な食べものと有害な物質や危険の少ない快適な生活環境が必要です。それには多くの生きものが暮らしている多様な森、川、海が相互に関連し合いながらバランスを保っている豊かな自然がなくてはなりません。

「生物多様性こうち戦略」の目指すところはシンプルで、「豊かな生きものの恵みを受けて、美味しく、楽しく、ずっと暮らしていくことができる高知県」を実現することです。その障害になっている課題を見つけて、それを解決するために私たちが何をすべきかを考えて実際に行動をしていきます。

目標はシンプルですが内容は複雑で、内容を理解することと行動する時の目安になるのが「生物多様性こうち戦略」です。



生物多様性とは (3つのレベルの多様性)

◇ 生態系の多様性

地球上のさまざまな循環によって多様な環境がつくられています。生きものは、地形や気候などにより特徴づけられるさまざまな場所に棲むところを見つけて暮らし、その環境と生きもの同士の「食べる・食べられる」、「利用したり・されたり」という関係によって「生態系」というつながりをつくっています。

◇ 種の多様性

地球上のさまざまな環境に合わせて生きものが進化した結果、動植物から細菌などの微生物、未知の生物も含めて多様な生物が生息しています。現在、地球上に約3,000万種の生物が暮らしています。

◇ 遺伝子の多様性

同じ種類の生きものでも、個々の個体はさまざまな遺伝子の組合せを持っています。こうした組合せが、見かけや挙動に明確な違いを生み出し、多様な個性として表れます。

3 改訂の概要

(1) 現状と課題

他県に比べ、比較的豊かな自然が残っているとされている本県ですが、生物多様性は確実に失われつつあり、それが環境問題として顕著に現れています。

本県の山から海にかけての生物多様性に係る状況は、各エリアとも悪化傾向にあり、山では林家数の減少、林業従事者の高齢化などが進み、放置人工林の増加が危惧される状況です。また、川では一部の河川で山の荒廃による高濁水の発生やダム貯水による濁水長期化といった問題が生じており、海では海水温の上昇や藻食性動物などによる磯焼け、海岸ではプラスチックや流木といった漂着ゴミが生物への障害になっている可能性があります。

さらに、高知県レッドデータブック 2018 動物編によると、高知県レッドデータブック 2002 に比べ、絶滅危惧種Ⅰ類とⅡ類を合わせ47種も増加しており、本県の生物多様性が明らかに劣化していることがわかります。

平成30年度に実施したアンケート調査結果によると、生物多様性に対する県民の認知度は、平成24年度の前回調査に比べて大幅に向上しました。また、生物多様性という言葉が「聞いたことがない」という人は、48%から22.5%と減少しています。その一方で、自然を保全・再生する活動への参加などの具体的な行動に結びついていないのではないかと考えられます。

そのため、これまでの取組を継続し、さらにSDGsなどの世界的な動きや国策とも連携させながら、県民の皆さんをはじめとする各主体が協働・連携して具体的な行動を起こしていくことが大切です。

(2) 体制と経緯

改訂に当たっては、高知県環境審議会自然環境部会や意見交換会の開催により、検討を進めました。また、関連調査などとして、アンケート調査やパブリックコメントを実施しました。

なお、改訂の経緯は次のとおりです。

自然環境部会による検討

開催日	名称	内容
平成30年8月2日	第1回高知県環境審議会 自然環境部会	改訂方針及び全体構成の検討
平成30年9月18日	第1回生物多様性こうち戦略改訂に係る意見交換会	全体構成の検討、高知の自然・生きもの・人の暮らしについての検討、アンケート調査内容の検討
平成30年10月31日	第2回生物多様性こうち戦略改訂に係る意見交換会	戦略改訂の意義の検討、生物多様性の評価の検討、行動計画の検討
平成30年11月29日	第2回高知県環境審議会 自然環境部会	アンケート調査結果の報告、戦略改訂版ドラフト案の検討
平成31年1月18日	第3回生物多様性こうち戦略改訂に係る意見交換会	戦略改訂版(案)の検討
平成31年3月20日	第3回高知県環境審議会 自然環境部会	パブリックコメント結果の報告、戦略改訂版(最終案)の審議

関連調査等

期間	項目	内容
平成30年10月3日 ～11月15日	アンケート調査	県民、事業所、NPO、学校、市町村、県庁職員を対象(合計6,214部)に、生物多様性の認知度や取組状況の把握を目的として実施
平成31年2月25日 ～3月15日	パブリックコメント	戦略改訂版(案)に対する県民からの意見募集

(3) 改訂のポイント

基本的に前戦略の内容を引き継ぎつつ、次のとおり改訂を行いました。

- ア. 5年間の変化に対応して修正を加え、近年、地球規模の海洋汚染として問題となっている海洋プラスチックごみや持続可能な開発目標(SDGs)など、新たな内容を書き加えました。
- イ. 「生物多様性こうち戦略推進リーダー」が使用できるテキストとしての機能も付加させようという意図で、生物多様性に関わる基本的事項の詳しい内容を書き加えました。
- ウ. 高知県の生物多様性に関わる指標の動向と評価を行い、高知県の山、川、里、海、まちの各エリアの課題を改めて整理するとともに、エリア横断的な課題を提示しました。
- エ. 課題に対する新たな目標値を設定し、それらを達成するための具体的な行動計画を示しました。
- オ. 戦略の推進に向けて、新たに「環境活動支援センターえこらぼ」と「生物多様性こうち戦略推進リーダー」を普及啓発の推進エンジンとして位置づけました。

4 「生物多様性こうち戦略【改訂版】」(以下「改訂戦略」)

(1) 戦略の理念

ふるさとの いのちをつなぐ
～豊かな生きものの恵みを受けて
美味しく 楽しく
ずっと暮らそう 高知県～

(2) 目標

☆ 現在【策定から5年後】

策定から5年間の変化に対応し、修正を加えました。
短期目標を達成するための5年として、
(3)の行動計画に取り組みます。
計画期間 令和元年度～令和5年度

☆ 短期目標【策定10年後】

生物多様性の損失を止めるために、生物多様性に配慮した活動や利活用が定着しつつある社会

☆ 中期目標【策定から50年後】

生物多様性が保全・再生され、人と自然の共生が適正に実現している社会

☆ 長期目標【策定から100年後】

地域が持続的に発展し、人と生きものが共に賑わうことで地域資源が活用され、現状よりはるかに生物多様性が豊かな社会

(3) 行動計画(令和元年度～令和5年度)

改訂戦略では、策定から5年間の変化をもとに課題に対する新たな目標値を設定し、それらを達成するために今後5年間で取り組む内容を、大きく4つのプランに分け、実施します。



PLAN 1 知る・広める

生物多様性の価値を把握し、社会全体で共有する

- ア. 生物多様性の普及・啓発
- イ. 地域の生物多様性から学ぶ教育の推進
- ウ. 身近な自然とのふれあいの場の整備と五感で感じる機会の提供



PLAN 2 つなげる

生物多様性を支え、次世代につなぐ仕組みと基盤をつくる

- ア. 生物多様性の調査と研究
- イ. 生物多様性保全・回復のための体制の強化



PLAN 3 守る

自然環境の保全と回復を図る

- ア. すぐれた自然環境の保全と管理
- イ. 希少野生動植物等の保護と管理
- ウ. 特定鳥獣の個体数管理と外来生物対策の推進
- エ. 生物多様性に配慮した公共工事等の推進
- オ. 地球温暖化の防止や循環型社会の構築へ向けた取組の推進

PLAN 4 活かす

生物多様性の恵みを活かした地域産業の持続と活性化を促進する

- ア. 生物多様性に立脚した地域資源の活用の促進
- イ. 生物多様性に密接な関係を有する一次産業の強化

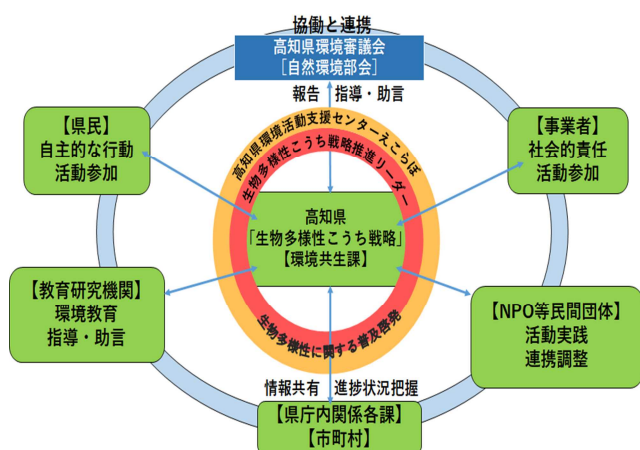


(4) 推進体制

生物多様性を推進していくためには、県民挙げての行動が必要です。

生物多様性の重要性が社会の中で広く理解され、誰もが生物多様性に配慮した行動がとれるよう、各主体が協働・連携して取組を推進していきます。

改訂戦略では、図の通り前戦略の推進体制に「生物多様性こうち戦略推進リーダー」と「高知県環境学習支援センターえこらぼ」の位置づけを明記しました。



「生物多様性こうち戦略推進リーダー」について

県は、改訂戦略に掲げた将来目標を達成するために、生物多様性の保全や普及、担い手育成、各主体間の連携促進や地域資源の発掘・活用に関する専門性を有する先導的な人材を育成し、その活動を支援していきます。

(平成30年度末時点のリーダー登録者数40名)

「環境活動支援センターえこらぼ」について

県民の環境活動や環境学習の推進拠点として、

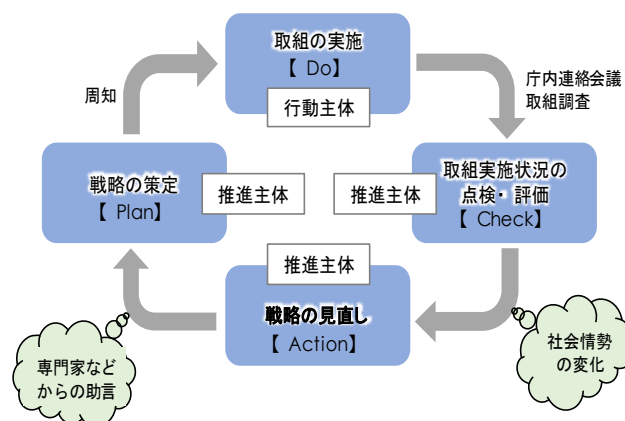
ア. 地球温暖化対策が進んだ低炭素社会

イ. 環境への負荷が少ない循環型社会

ウ. 自然環境の保全が図られた自然共生社会の構築を目指すための環境情報の発信や環境学習講師の派遣、環境イベントの開催、生物多様性の保全の普及活動などを行っていきます。

(5) 進捗管理

PDCAサイクルの考え方にに基づき、着実に事業の進捗を図ります。その実施状況は、県庁内の連絡会議や取組調査、高知県環境審議会（自然環境部会）などにおいて点検・評価し、その結果は高知県のHPなどの媒体を通じて広く県民に公表します。



詳細は、環境共生課のホームページに掲載しています。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/chii-kisenryaku.html>